令和８年度　授業改善推進プラン　　３年　　小平市立小平第十一小学校

教科等	授業改善の視点	児童の学習状況	改善の計画と評価の方法
国語	①　主体的に学びに向かう力の向上 【基礎的・基本的な学習の定着、主体的・対話的で深い学びのある授業】	①　単元テストの結果では、知識・技能の正答率の平均が 77%、思考・判断・表現の正答率が 85%となっている。正答率は低くはないが、さらに高めるためには、漢字や言語知識の定着を図る必要がある。	①　日常的に図書の時間を確保して読書活動を推進することで、言語知識のインプットを図る。45 分の授業内に１度はペアワークやグループワークの活動を取り入れ、対話的な時間を設定する。また、漢字の学習の仕方について、書き取りだけでなく、組み立てや熟語に着目した学習の仕方を提示し、自主学習でも取り組めるようにする。
	②　ICT 機器を用いた思考ツールの活用 【ICT 機器の活用】	②　ほとんどの児童がすすんで学習者用端末を活用している。一方で、効果的に学習者用端末を使用するような学習展開に課題がある。	②　一人一台端末の思考ツールを用いて、整理・分類する力を身に付け、自分の考えを形成したり、まとめたりする。
社会	①　主体的に学びに向かう力の向上 【基礎的・基本的な学習の定着、主体的・対話的で深い学びのある授業】	①　児童はすすんで学習しているが、全員参加には課題がある。単元テストの結果では、正答率 70%未満の児童が知識・技能で 25%、思考・判断・表現で 29%いる。このことから、まずは学習課題が児童に身近になるように設定し、児童が主体的に学習することが必要である。	①　単元の導入で普段の生活を想起して問題意識を高めながら学習課題を設定する。また、図やグラフ、写真、地図などの多様な資料の読み取ることができるよう、見方を身に付けさせる指導し、児童が主体的に学習できるようにする。
	②　思考力・判断力・表現力を育成するための ICT 機器の活用 【ICT 機器の活用】	②　学習をまとめる段階で、情報収集の差やまとめ方のアイデアの差があることで、自分自身の学習をまとめる力に差があることが課題である。このことから、まとめる段階で、自分の考えを生かしたり、一人一台端末を活用したりして学びを実感できるように指導する必要がある。	②　調べる段階で上記①の指導を行うとともに、読み取ったことから推察したり検証したりして「自分の考え」をもたせる指導を行う。また、まとめる段階で、書くことを例示し、全体への活動の支援とする。その際、一人一台端末を活用したり、個別支援を行ったりする。
算数	①　主体的に学びに向かう力の向上 【基礎的・基本的な学習の定着、主体的・対話的で深い学びのある授業】	①　基礎的・基本的な学習の定着は見られ、各単元の学習を進めるときの様子から、ほとんどの児童が学習に主体的に学んでいる。その中で一定数の児童は算数に苦手意識をもち、主体的に学びに向かう姿勢について改善の余地がある。このことから、誰一人取り残さない授業展開にする必要がある。	①　苦手意識のある児童の困りごとに着目して授業を展開することで、全員が授業に参加できるような授業展開にする。例えば、書字の困り感の軽減は、書く量を調整するワークシートや学習者用端末を使用する。また、答えを出して終わりではなく、どのようにして答えを導き出したのかについて問い返すなど発問を工夫する。さらに、考えを交流する機会を多くすることで対話的な学習の時間を充実させる。
	②　思考力・判断力・表現力を育成するための ICT 機器の活用 【ICT 機器の活用】	②　説明を書く、発言する活動への取り組み状況には差がある。また文章で書く説明が多く、説明方法の多様化が課題である。このことから、自力解決の時間を充実させる必要がある。	②　一人一台端末等を活用し、児童が、数直線等の図を用いて解法説明を分かりやすくするものや図形など可視化して理解が高まる資料を配布する。
理科	①　主体的に学びに向かう力の向上 【基礎的・基本的な学習の定着、主体的・対話的で深い学びのある授業】	①　学習内容に対して、高い関心をもって取り組むことができている。一方で気付きや疑問をもち、次の学習の課題設定に結び付けていくことに課題がある。児童が主体的に問題意識をもつとともに、協働的に学習する必要がある。	①　児童の疑問や気付きから、問題意識をもって、実験や観察を行うことができるよう、発問を工夫する。予想や結果を基に気付いたことや考えたことを出し合う場面などで、ペアワークやグループワークの活動を取り入れ、対話的な時間を設定する。
	②　ICT 機器の活用した観察・実験の記録 【ICT 機器の活用】	②　多くの児童は、一人一台端末を活用して学習している。観察・実験がよりよいものになるように、学習者用端末を活用し学習内容を積み重ねていくことが課題である。	②　特に観察を行う際には、ICT 機器を活用し、観察対象の細部まで見ることができるようにする。また、実験を行う際には、実験結果の共有や実験の記録に活用していく。

音楽	① 学ぶ楽しさを実感させる授業の充実 【基礎的・基本的な学習の定着、主体的・対話的で深い学びのある授業】 ② 興味・関心を高め、理解を深めるための ICT 機器の活用 【ICT 機器の活用】	① ほとんどの児童が学習に意欲的に取り組んでいる。一方で、苦手意識があると、取り組むことに躊躇する児童が数名みられる。誰もが意欲的に学習に取り組むことができるように知る必要がある。 ② ブラウザ上で利用できるアプリなどを利用し、リズムの学習や楽器の音色などについて意欲的に学習している。	① 児童が興味を維持できるような教材選択をする。合唱や合奏で、互いの声や音を聴き、児童同士が関わり合い、表現を認め合える授業展開にする。 ② 特に音楽づくりにおいて、学習者用端末を活用し、自ら作り上げる音楽の楽しさを味わわせる。
図画工作	① 主体的に学びに向かう力の向上 【基礎的・基本的な学習の定着、主体的・対話的で深い学びのある授業】 ② ICT 機器を用いた発表や鑑賞 【ICT 機器の活用】	① 学習内容に対して関心をもち、意欲的に学習できている。このような児童をさらに増やすために、導入で発想を広げられるようにすることが必要である。 ② 作品を作るときにイメージがもてず、手が止まってしまう児童もいる。このことから、発想や構想を与える場面でも学習者用端末を活用することですぐに作品作りに取り組めるようにする必要がある。	① 題材の核となる部分を明確に伝え、児童が発想を広げるきっかけを与え、児童に活動の見通しをもたせるように、単元の導入を工夫する。 ② ICT 機器を活用して、発想や構想のきっかけを与えたり、これまでと継続して鑑賞や発表に活用したりする。
体育	① 主体的に学びに向かう力の向上 【基礎的・基本的な学習の定着、主体的・対話的で深い学びのある授業】 ② ICT 機器を用いた動きの可視化や比較 【ICT 機器の活用】	① 学習時は、ほとんどの児童が意欲的に運動できている。一方で、休み時間にすすんで体を動かしている児童は学習時に比べて少ないため、休み時間における運動への意欲を高める取り組みを推進する必要がある。 ② 運動する学習であるがゆえに、一人一台端末の活用場面は限られている。このことから学習効果のある単元、場面を考え、学習者用端末の使用を計画的に行う必要がある。	① 授業中の主体性が休み時間にもつながるように学習を計画する。体つくり運動でペアやグループの活動を多く取り入れたり、室内外でできる遊びにつながる運動を教材として扱ったりする。 ② 特に器械運動や陸上運動においては、動きの可視化や比較をするために ICT 機器を活用していく。また保健領域では、思考ツールを活用して考えを形成したり、共有したりする。
外国語活動	① 学ぶ楽しさを実感させる、音声でのやり取り中心の授業の充実 【基礎的・基本的な学習の定着、主体的・対話的で深い学びのある授業】 ② ICT 機器を用いた言語外情報としての視覚教材の活用 【ICT 機器の活用】	① ほとんどの児童が主体的に学習に取り組んでいる。 ② 英語に初めて出会う小学校段階であるため、英語を聞いて理解する際に言語外情報がないと理解が難しいのが現状である。視覚的補助を用いることで児童の理解促進を図る必要がある。	① 互いの考えや気持ちを伝え合う言語活動を通して、実際に自分のことを伝え、相手のことを知るという体験をさせ、外国語でコミュニケーションをとることの楽しさを実感させる。 ② 児童の理解促進のための言語外情報の視覚教材として ICT で絵や写真を提示する。また、ICT を活用し、動画教材を使うことで児童が集中して言語材料に慣れ親しみ続けられるようにする。
道徳	① 「考え・議論する道徳」授業の充実 【基礎的・基本的な学習の定着、主体的・対話的で深い学びのある授業】 ② ICT 機器を用いた教材内容の提示 【ICT 機器の活用】	① 教材の場面をもとに、自分の生活経験と結び付けて自分のこととして捉え、ペアや全体の交流で話し合いを広げたり深めたりしていくことが課題である。 ② 自分の生活体験と結び付いていないことから、場面を具体的に想像できない児童がいる。	① 児童の実態に応じた内容項目と教材の研究を行う。自分のこととして考えることができるよう、発問や補助発問を吟味する。45 分の授業内に 1 度はペアワークやグループワークの活動を取り入れ、対話的な学びの時間を設定する。 ③ デジタル教科書やデジタル資料を用いて、導入や教材提示の仕方を工夫したり、児童の経験と結びつくよう具体的な場面提示をしたりして、教材の内容を理解し、場面や様子を把握することができるようにする。

評価の方法は、学校評価及び実施可能な教科は単元ごとのテスト等の正答率・到達率とする。